

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年2月13日

札幌市立羊丘中学校

1 本年度の重点目標

- 自ら考え、自ら判断し、自ら行動する
- 「学ぶ力」「健やかな体」育成のための教育の充実
 - 「豊かな心」育成のための教育の充実
 - 「学び続ける教員」としての資質・能力の向上

2 本年度の経営方針

- 「教育課程」～つながり・特色のある編成～
 「生徒指導」～心のつながりが実感できる支援・指導活動～
 「教科指導」～主体的に学習に向かう授業づくり～
 「生徒活動」～「一人一人を大切にしたい」つながりのある学級・学年の集団活動～
 「信頼される学校づくり」～生徒と教師、教師間、学校と家庭・地域、パートナー校とのつながり～

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	1 ・基礎・基本の定着と学力向上を図るため、「分かる、できる、楽しい授業づくり」に努めている。	B	・全国学力・学習状況調査の同項目に係る質問で肯定的回答が全国平均を下回っており、学校評価アンケートにおいても教職員と生徒・保護者の差が10ポイント程度ある。今後はAARサイクル(イントロダクション、探究、リフレクション)を基に課題探究的な学習(=自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する学習)を推進して学習指導の充実に努める。	B	A
	2 ・1人1台端末や視聴覚機器などを効果的に活用した授業を工夫している。	A	・各教科の授業や総合的な学習の時間を中心に、1人1台端末を活用しており、90%程度の生徒が学習の役に立っていると回答している。 ・思考力や表現力を身に付け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、教職員のICT活用指導力の向上を図っていく。	A	A
	3 ・説明責任を視野に、客観性・信頼性を高める評価活動を行っている。	B	・今年度は年度の途中で評価規準や評定方法に関する研修を実施した。今後は評価に関する実践事例を蓄積して教員間で共有していく。 ・生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるように教職員が、学習の成果を的確に捉え、小テストや定期テストだけではなく、日常の学習におけるフィードバックをこまめに行っていく。	A	A
	4 ・道徳の授業をはじめ、豊かな心を育む指導を充実させている。	A	・学校生活全体を通して計画的に指導するとともに、道徳の授業を要として生徒の発達段階や実態等を踏まえ、創意工夫ある指導を行うことができた。自他の存在を大切にしたい心の教育の充実が本校教育の根幹であり、今後も学校全体で豊かな心を育む教育の充実に努めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	全国学力学習状況調査の結果からも、決して悪い状況ではないことがわかる。また、評価活動についても今後の改善策も明示されているので、その部分を評価したい。また、道徳教育の充実も、地域で見かける生徒がしっかりとしていて、純粋に育っている印象を受けている。				
生徒指導	5 ・自主的、主体的に判断し実践する生徒の育成を目指した指導を行っている。	A	・育みたい生徒像を共有し、組織として同じ視点をもって指導する体制を確立する。 ・「生徒の声」を聴く機会を多く創出し、生徒一人一人の主体性を大切にしたい指導の工夫・改善に努めていく。	A	A
	6 ・生徒にとって学校が楽しく通える場となるよう、いじめ対策をはじめ、様々な場面で支援している。	A	・いじめ対策については、いじめ防止対策委員会、事実関係の把握、教職員間の情報共有と組織的対応を迅速に行った。 ・今後も学級経営や教育相談の充実をはじめ、楽しく通えるための「居場所づくり」の改善を図りつつ、組織的な対応をさらに強化していく。 ・個々の生徒の表情や心の健康観察アプリの活用を通して、生徒の心身の状態を把握し、生徒に寄り添った支援をしていく。	A	A
	7 ・挨拶や礼儀、きまりを守るなど、基本的な生活習慣を身に付ける指導を積極的に行っている。	A	・教職員、保護者、生徒すべてのアンケート結果で90%以上の肯定的回答が出ている。今後も挨拶の意義やきまりの遵守について、生徒が深く理解し、基本的な生活習慣を大切にしていけるよう、生徒の自主性を育み規範意識の向上を図る。	A	A

学校関係者評価委員による意見		生徒のあいさつはとてもいい印象を受けている。今後も取組を継続してほしい。新しくなった制服の着こなしや、きれいな校舎を見ると、とても落ち着いていることがわかる。いじめ対策など、学校としての対応をしていることが伺えた。これからも学校での多くの取組から、さらによくなっていくことを願っている。				
生徒活動	8	・学校行事は、生徒にとって魅力ある、本校らしいものになるよう工夫・改善されている。	A	・生徒の肯定的回答は95%を超えている。行事を通して学校生活や学級・学年づくりの充実を図り、文化的行事や体育的行事をはじめ、本校の特色ある行事が生徒の様々な力を伸ばす機会となっている。今後も各取組の位置付けを再確認しつつ、内容を精選しながら引き続き達成感や成果を上げられるよう工夫・改善に努めていく。	A	A
	9	・進路指導やキャリア教育は、望ましい勤労観や職業観をもてる内容になっている。	A	・今年度より第1学年でもキャリア教育を実施し、3年間を通して将来を考える機会を創出した。今後も社会的、職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てていく。 ・進路については全学年の保護者に対し、進路指導に関わる情報提供を行っていく。	A	A
	10	・創意工夫を生かした教育の推進や特色ある学校づくりを目指し、教育活動を推進している。	A	・今年度は、教職員から多くの意見を集約し、問題点・改善点を自分事として捉え、学校全体で教育課程の見直しを行った。今後も教育課程の再編成を行い、生徒一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりに努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		若いうちにボランティア活動など社会貢献する気持ちを高めていくことはとても重要で、社会などではそういう部分が評価されていることを考えると、ぜひ中学校のうちからキャリア教育を行って、視野を広げていくことはこれからも続けてほしい。また、いろいろな活動を通して、生徒の自己肯定感が高まっていくことにも期待したい。特に、たくさんの失敗を経験すること、結果ばかりにとらわれず、その過程にフォーカスしていけるような経験が、中学生のうちに行えることを願っている。				
開かれた学校	11	・学校情報の積極的な発信や学校公開の充実を図っている。	A	・情報発信における保護者の肯定的回答は80%程度である。今年度は個人情報保護の観点から行事写真をホームページに掲載できなかったことがポイントが高まらなかった原因と捉える。今後は学校の取組や現状などを保護者・地域の方々に理解していただけるよう、発信の仕方や頻度について改善を図る。また、学校公開日や各行事を自由に参観できる機会を確保していく。	A	A
	12	・学校関係者評価の実施を通して、学校の課題と改善の手立ての明確化を図っている。	A	・学校評価で本校の教育活動の成果を検証し、PDCAサイクルで学校運営の工夫・改善につなげる。評価結果を公表することで保護者や地域からの理解や共感、協力を得るきっかけづくりに役立て、開かれた学校づくりの一助とする。	A	A
	13	・地域人材を活用した教育活動を推進している。	A	・総合的な学習の時間(職業体験・上級学校訪問)や各種講演会において、関係機関とのつながりを生かし、外部講師の積極的な活用を図る。 ・学校運営協議会で家庭や地域との連携(地域学校協働活動)を検討していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		情報発信、特にホームページを更新する業務は非常に大変ではないかと推察する。そんな中で更新をしていくことで、家庭としては様子がわかり安心にもつながっているので、これからも情報の発信は工夫しながら進めていただきたい。ホームページの更新については、日付を決めて更新したり、すぐやるなどで更新を伝えるようなことがあると、より閲覧数も増えてよりよい運用につながっていく。また、個人情報の保護の観点からも難しいところがあるので、行事写真の販売などで対応しているところは評価したい。				

【評価書の見方】

この評価書は、次の2つの評価が組み合わされた表になっています。

① 自己評価～本校教職員が、自分たちの取組を達成状況で表し、改善の方策を打ち出したもの。

② 学校関係者評価～学校関係者評価委員が、その自己評価が適切であるかどうかを評価したもの。

よって、学校関係者評価の結果がAである場合、学校が評価した結果や改善策が十分適切であることを意味し、学校関係者がその項目自体を評価したわけではありません。

【自己評価結果(達成状況)～A:十分である B:概ね十分である C:不十分である D:改善を要する】

【学校関係者評価結果(適切さ)～A:十分に適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切】